



プランクトンに着目して気候変動を紐解く！ 過去1万2000年間の環境変化を明らかに

エスチュアリー研究センター 助教 仲村 康秀

島根大学プランクトン研究室（仲村研究室）では、現在の海洋・湖沼に生息しているプランクトン（海洋生物学）と、過去の堆積物中に保存されているプランクトン（地球科学）という両方の研究を行っています。

特に、後者の研究では、DNAや顕微鏡観察を用いて過去のプランクトン（生態系の根源）の種類と量を推定し、それにより、過去に起こった津波の影響や、考古学や歴史学において昔の人々が暮らしていた環境などを推定する事ができます。これまでに過去2500年間の環境推定に成功しており、最近ではより昔の1万2000年間の環境変化を明らかにする研究を進めています。今から7000-5000年前（縄文時代）では気温が現在より2-3度高く、温暖化による海面上昇により日本列島沿岸は水没していた事が知られています。この時代の環境を、本研究で解明する事により、気温が上昇した場合に生態系がどうなるのかという点を推定できるため、気候変動対策に必要な知見を提供する事ができます。

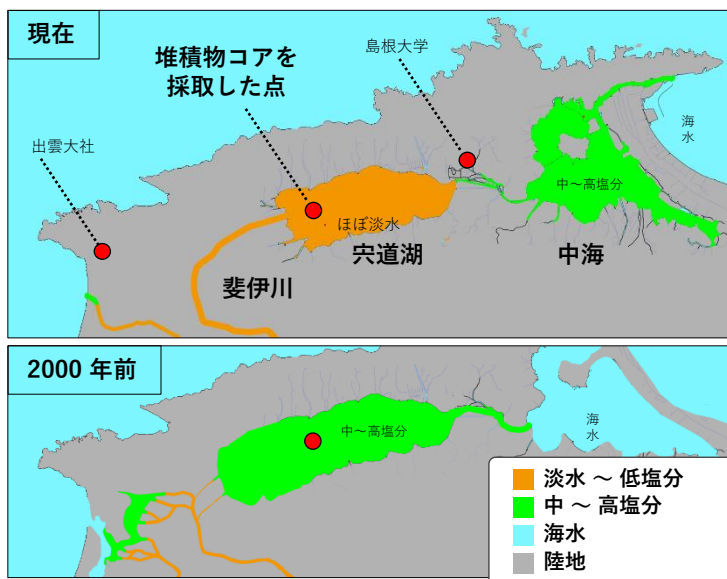


図. 現在と2000年前の穴道湖・中海における塩分環境



堆積物を採取している様子。